

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中津高等学校全日制

学校番号 52

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>知・情・意の調和がとれた、人間性豊かな、たくましい生徒を育成する。</p> <p>(1) 「自由と個人の尊厳」を指導の根底におき、生徒一人一人の個性を生かした自己実現の推進を図る。</p> <p>(2) 「公共の精神」を醸成し、活力ある地域作りに貢献できるグローバルな視野を持った人材を育成する。</p> <p>(3) 「正義を希求し、真理を愛する精神」を基に、自他を敬愛し、学問を探究する人間形成を図る。</p>
----------	--

2 評価する領域・分野	教育課程・学習指導・広報・情報化推進
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>① 授業評価アンケートの結果から、「この授業に意欲的に取り組んでいる」「教師の説明や他の生徒の発言をよく聞いている」はすべての教科・クラスにおいて3分の2以上の生徒が「当てはまる」と回答し、授業を積極的に受けられている生徒が多い。</p> <p>② 学習実態調査とスタディーサポートの結果から、この3年間を見ると、平日・休日ともに家庭学習時間はやや増加した。特に、2年生9月と3年生4月の増加率が高い。しかし、本校の目標値には達していないため、学習習慣の定着を図る必要がある。</p> <p>③ 学校評価アンケート結果から、「通信やホームページ等を用いて様々な情報を速やかに伝えている」について、生徒・保護者ともに90%以上が「そう思う」と回答し評価が高いため、継続して広報活動を積極的に行っていく。</p>
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>① 学習習慣を身に付けるために、家庭学習時間の増加と、自主学習の推進を図る。</p> <p>② 1年生から新たに導入された観点別学習状況評価（以下、観点別評価と記す。）を的確に運用する。</p> <p>③ 保護者・中学生への広報活動を積極的に行う。</p>
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>① 学習指導委員会で学年会・教科会で話し合った内容を共有する。</p> <p>② 教科会を中心に研究・実践し、学習指導委員会で共有する。</p> <p>③ 教務部が中心となり、全職員で行っていく。</p>

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
<p>① 学習指導委員会や教科会で活発な協議を行い、学年・クラスで生徒への積極的な働きかけを行う。各教科でオリエンテーションや授業の中で、自主的に学習する方法等を生徒へ伝えていく。</p> <p>② 教科会での研究と、様々な研修で情報を収集し共有していく。また、中津高校の評価基準を作成する。</p> <p>③ 中津高校ホームページを頻繁に更新したり中津高だよりを積極的に発行する。また、夏の中学生体験入学や秋のオープンキャンパスの内容を充実さ</p>	<p>① 学習実態調査・授業評価アンケート・スタディーサポートの結果とクラス独自の家庭学習時間調査の結果によって評価する。</p> <p>② 前期・学年末の観点別評価の結果と10段階評価の結果を検証する。</p> <p>③ 学校評価アンケートの結果や体験入学のアンケート結果によって評価する。</p>

せて中津高校の魅力を中学生に伝えていく。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>① 前期の学習実態調査の結果を生かして、後期に生徒への働きかけを強化した。特に、2年生の家庭学習時間が少なかったため学年独自で取り組みを行った。また、中津高だより(啓発版)で各教科の自主課題として取り組むと良いことを掲載し、生徒が積極的に自主学習に取り組むきっかけを作った。</p> <p>② 教科主任に対して有益な情報を提供するとともに、中津高校の基準を作成した。</p> <p>③ 中津高だよりの内容や写真を充実させ、多くの行事や取り組みを紹介した。また、中学生体験入学やオープンキャンパスの案内するポスターを作成し各中学校へ配布したり、日程や内容を改善し中津高校の魅力を体験できるようにした。</p>	<p>① 学習実態調査、授業評価アンケート</p> <p>② 各教科の評価</p> <p>③ 学校評価アンケート、事後アンケート</p>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
11 成果・課題	<p>○ 授業を積極的に受ける生徒は非常に多かった。(授業評価アンケート)</p> <p>○ 各教科が観点別評価の研究を重ねて評価基準を完成した。</p> <p>○ 「中津高だより」の発行数を増やし、内容や写真を充実させたことで、多くの生徒や保護者に読んでもらい本校の様子を広く知ってもらえた。(学校評価アンケート)</p> <p>○ 中学生体験入学やオープンキャンパスの満足度が生徒・保護者ともに過去と比較して高かった。(事後アンケート)</p> <p>● この3年間で学習時間は増加しているが、中津高校の目標には達していない。(学習実態調査)</p> <p>● 与えられた課題ではなく、自主的に行う学習の定着が図れていない。</p>	<p>総合評価</p> <p>A B C D</p>
12 来年度に向けての改善方策案		
<p>① 学習習慣の定着を図るため、年2回の中間考査を廃止し、単元テスト等を多くすることで、スモールステップで復習・評価・改善ができる仕組みに変更する。</p> <p>② 評価方法について研究を継続し、更に効果的な評価の仕方を追求、実践していく。</p> <p>③ 中津高だよりだけでなく、ホームページをさらに充実させるとともに、中学生体験入学やオープンキャンパスを更に良いものにし、中学校への広報に力を入れることで中津高校の魅力を伝えていく。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月9日

【意見・要望・評価等】

- ・志望校に合格した卒業生に、1、2、3年生と自宅学習をどれくらい行ったかを調査して在校生に示せば、やる気が湧いて学習時間が増加するのではないか。
- ・各学年の自宅学習時間の平均はどれくらいか。
- ・宿題や課題を行うのにかかる時間はどれくらいか。
- ・自宅学習を効果的に行う方法などはどのように伝えているか。

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中津高等学校全日制

学校番号	52
------	----

I 自己評価

<p>1 学校教育目標 学校教育方針</p>	<p>知・情・意の調和がとれた、人間性豊かな、たくましい生徒を育成する。</p> <p>(1)「自由と個人の尊厳」を指導の根底におき、生徒一人一人の個性を生かした自己実現の推進を図る。</p> <p>(2)「公共の精神」を醸成し、活力ある地域作りに貢献できるグローバルな視野を持った人材を育成する。</p> <p>(3)「正義を希求し、真理を愛する」精神を基に、自他を敬愛し、学問を探究する人間形成を図る。</p>
----------------------------	---

<p>2 評価する領域・分野</p>	<p>◇生徒指導</p>
<p>3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<p>① 生徒のアンケートでは「本校では、人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている」の結果で、「あてはまる・まああてはまる」が93%で昨年より2%下がる結果となった。生徒にはモラルやマナーの大切さが理解されてきている傾向である。また、保護者アンケートでは「学校はいじめや差別を許さず、厳しく対応している」について「よくあてはまる・ややあてはまる」の合計が51%となっていて、生徒のアンケート結果の71%と比べるとの認識に開きが昨年同様であった。</p> <p>② 保護者に対しての「授業や家庭学習への指導・支援等をとおして、一人ひとりの能力に応じた指導を行っている」で68%と回答している。中津高校の「生徒一人一人の個性を生かした自己実現」という目標には課題が残る状況であり、分掌・学年会・教科で対策を講じる必要がある。</p> <p>③ 「学校は高校生としてのマナーや社会規範を身に付けさせる指導を行っている」については、92%の保護者からは評価されて昨年より7%上がった。身だしなみや挨拶などの基本的な生活習慣について、保護者からは関心の大きい評価対象なので、今後生徒自らが自分自身を律する「自律」が徹底されるような支援をしていきたい。</p>
<p>4 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>① 学習・部活動・学校行事・その他の特別活動にしっかり参加し、優先順位を付けて行動できるようにさせる。自主・自立を促す。</p> <p>② 校内での身だしなみは落ち着いてきたので、今後もこれが継続するよう、身だしなみ指導は継続して実施する。また、校外についても気を配るよう努める。</p> <p>③ 地域との連携・関係を昨年度以上に築き上げていく。そのためにもCCC活動の活用や地域に広がる自主的な生徒会活動・委員会活動を展開する。また、特別支援学校との交流も検討したい。</p> <p>④ 本年度も生活委員会が作成した「スマホ断キャンペーン」を実施した。生活委員会・生徒会を中心に啓蒙活動を活発にさせたい。危険な歩きスマホを自重するように指導していきたい。</p> <p>⑤ 問題行動、いじめ、不審者等様々なトラブルに関する事象の未然防止に努める。</p> <p>⑥ 全職員が共通の課題を認識し(共通認識)、あらゆる場面で助け合いながら(協同体制)、指導・支援する。</p> <p>⑦ 問題を抱える生徒や保護者への初期対応を迅速に行う。早期の家庭訪問を躊躇しない。</p>

5 重点目標を達成するための校内における組織体制	① 学年会や各分掌との連携の強化 ② 全職員が共通認識し、協同体制で指導・支援できる体制強化	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 自主性を重んじた活動や各種委員会の活性化につながる活動支援（CCC活動は少しずつ再開し始めている） ② 学年と連携した身だしなみ指導 ③ 教育相談の充実	① 諸活動参加者の感想、生徒の実態を観察 ② 外部アンケートによる実態把握 ③ 迷惑調査など生徒へのアンケートによる実態把握	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① コロナウイルス感染症対策を講じた学校祭の取り組み及び部活動の活性化 ② MSリーダーズによる啓発活動 ③ SCによるカウンセリングと事後指導	① 参加状況、活動後の生徒の様子 ② 参加状況、活動後の生徒の様子 ③ アンケート結果、態度 ④ 未然防止、問題解決	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果課題	<p>○生徒会執行部が自主的に模索しながら活動できた。前期生徒会は旭陵祭の実施及び学校紹介等の動画作成や後期生徒会の次年度の学校祭の方向性の模索や校則などのアンケート、NOチャイムディーの実施などの活動があった。</p> <p>○ CCC活動は、コロナウイルス感染症対策を講じて実施できるものがあり、多数の生徒が積極的に参加した。CCC活動は中津高校の特色なので今後も生徒に積極的に提供していきたい。</p> <p>○ 生徒がより主体的に委員会活動などの特別活動に関わることができるようになりつつある。具体的には、生活委員会が授業での挨拶のさらなる向上を呼びかけた。</p> <p>○ 生活委員会が、「スマホの使用」について昨年より大きく啓発活動を実施した。各定期考査期間が始まる時期に、各教室で「スマ断」の呼びかけを実施したり、全校放送を用いて「歩きスマホ」の危険性を訴えた。</p> <p>○ コンピューター部が「あったかい言葉がけ」の東濃地区のポスター作製に協力した。</p> <p>● 身だしなみは落ち着いてきてはいるが、女子生徒の中には気になる生徒もいる。一人一人が中津高校の生徒としての誇りを持った立ち居振る舞いがどこまでできるかが今後の大きな課題の一つである。</p> <p>● 人間関係のトラブルはSNSに関するものが主であり、今後ともSNSを含めた携帯（スマホ）使用に関するマナーについては事あるごとに指導していきたい。</p> <p>● 勉強と部活動の両立は言うまでもないが、3年間のうちに何か一つ自分の視野を広げるために学校外の活動に参加するような意識づけをしているが、一部の生徒への広がりを感じるが全体へ浸透は感じられない。自分の可能性を広げることは将来の可能性へとつながるので、全体へ広がる方法を模索していきたい。</p>	総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案 ① 生徒がより積極的に様々なことを企画立案できる環境を作り、リーダーの育成という観点を重点課題として委員会活動の活発化を引き続き充実させる。 ② 生徒がより積極的に様々な企画に参加し、自己有用感・自己肯定感を感じることができる特別活動を実施することを継続する。 ③ SNS等携帯（スマホ）の有効な使用方法を生徒たちに考えさせる。 ④ 生徒が中津高校に対して充実感がある生活をさせる。 ⑤ 特別支援教育と教育相談を上手に峻別し、様々な生徒に対応するための教育相談体制をより充実させるよう検討し、教員研修を実施する。 ⑥ 制服について生徒・保護者・同窓会等にアンケートを実施し、あり方を検討する。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月9日

【意見・要望・評価等】

- ・中津高校の制服は全国的にも珍しいデザインなので、独自性があるという観点から存続してほしい。

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中津高等学校全日制

学校番号

52

I 自己評価

<p>1 学校教育目標 学校教育方針</p>	<p>知・情・意の調和がとれた、人間性豊かな、たくましい生徒を育成する。</p> <p>(4) 「自由と個人の尊厳」を指導の根底におき、生徒一人一人の個性を生かした自己実現の推進を図る。</p> <p>(5) 「公共の精神」を醸成し、活力ある地域作りに貢献できるグローバルな視野を持った人材を育成する。</p> <p>(6) 「正義を希求し、真理を愛する精神」を基に、自他を敬愛し、学問を探究する人間形成を図る。</p>
<p>2 評価する領域・分野</p>	<p>◇進路支援</p>
<p>3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<p>① 生徒の評価より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本校では生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている」（高評価 83%（前年度より-7%）、分からない 12%（前年度より+6%））。 ・「本校では生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている」（高評価 83%（前年度より-8%）、分からない 11%（前年度より+6%））。 <p>…概ね高い評価を得ているが「分からない」の割合が増加傾向になっている。適切な進路支援がおこなわれていることを実感できるような生徒一人一人に対するより具体的な指導を進めていきたい。</p> <p>② 保護者の評価より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は、進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている」（高評価 91%（前年度より-2%）、分からない 6%（前年度より+3%））。 <p>…年7回の「保護者のための進路サポート勉強会」をオンラインで実施しており、保護者の参加数も多く、昨年度と同様高い評価を得ている。引き続き、時機を逃さずに進路情報を提供していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は、生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしてくれる」（高評価 78%（前年度より-12%）、分からない 17%（前年度より+12%））。 <p>…昨年度よりも高評価が減少した分「分からない」が増加した。三者懇談をする担任に対して、進路支援部の方から支援できる体制を作り、適切な進路支援がおこなわれていることを実感できる進路支援をしたい。</p> <p>③ 進路希望の多様化、推薦入試の拡大、私立大学入試の複雑化など、進路に関わる諸課題に対して、生徒や保護者の立場に立った的確で丁寧な進路支援を引き続き行っていきたい。</p>
<p>4 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>① 個々の生徒が自己を正しく理解し、自らの生き方を考え、主体的に進路を選択・決定できるよう、助言や援助に努める</p> <p>② 個々の生徒の特性等を的確に把握し、望ましい職業観を育むとともに、適切な情報を提供し、計画的な進路（人生）設計の補助に努める。</p>

5 重点目標を達成するための校内における組織体制	① 学年会、教科会、教務部との連携と進路研修会の充実 ② 進路支援部を中心とした学習効果や学力の分析 ③ 前年度3年学年会からの引き継ぎの充実と資料の活用	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 進路指導及びキャリア教育において進路支援部が率先して進め、次年度に引き継がれる体制作り ② 進路プログラムの充実 ③ 効果的な補習、模試の計画と実践、評価 ④ 進学情報の分析と提供 ⑤ 進路判定会議の充実	① 各種事業実施後のアンケート集約や反省の分析、活用方法 ② 生徒の進路結果やその満足度 ③ 教員側からみた一人一人の生徒の進路結果の分析 ④ 学年会や他の分掌からの意見 ⑤ 進路結果と判定会議の検証・分析	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 1年生秋季研修、1年生合同企業説明会、弁論大会 1・2年生出前講座、各種進路講話、弁論大会 ② 土曜補習、夏期集中補習、共通テスト演習 ③ 大学判定会議、就職支援、羅針盤発行、インターンシップ、SDGs 学習 ④ 保護者を対象とした進路サポート勉強会 ⑤ 進学指導重点校事業（外部講師による特別補習）	① 教師・生徒の反省等 ② 模試成績の判定等 ③ 進路情報の活用等 ④ 保護者との連携 ⑤ 生徒の感想等	(A) B C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D (A) B C D
10 成果課題	○コロナ禍ではあるが、感染症対策を徹底した上で各種進路行事を中止することなく、生徒に取り組みさせることができた。 ○一昨年度からスタディサプリ（リクルート社）を全校で導入しており、各生徒の自宅学習の充実に取り組んできた。しかし、使用率は全体の半分程度であったため、年度後半からは Classi（ベネッセ社）を取り入れ、模試の事前学習として具体的な目標をもたせて取り組ませた。次年度は Classi を1・2年生で導入し、模試の事前学習から自己の学習へと発展させたい。 ○生徒の自己実現に向けてのサポートに全校体制で取り組んでいる。放課後や休日の補習、面接や小論文の個別指導などは全ての教員が協力体制にあり、実績も上がっている。推薦入試が拡大しており、更なる対応が必要であり、今年度は教員を対象とした「志望理由書指導講座」「プレゼン指導講座」なども実施した。 ○1・2年生の総合的な探究の時間における取り組みが充実している。 1年生の秋季研修では、事前学習で大学教授に来ていただいたり、当日実習で大学等を訪問したりするなど充実した取り組みができた。また、その学習の過程で考えたことが、後半の弁論大会のテーマへとつながっている。2年生では、出前講座や地域の方がゲストティーチャーとして参加してくださる SDGs 学習で各自の進路に対する意識を高め、探究発表会へとつなげることができた。校外活動も増えており、積極的な姿勢がうかがえる。 ○進学希望者だけでなく、就職希望者へのサポートもできた（公務員2名、一般企業1名）。 ●自主学習への取り組みせ方、学力上位者と下位者への補習の組み方、拡大する推薦入試希望者への指導（教員への負担）が課題である。	
11 来年度に向けての改善方策案	① 共通テストを見据えた、各教科における授業や課題の見直し、他教科との交流、模試のやり直し指導などを通して、生徒により力をつけさせるにはどうしたらよいか研究する。	

- ② より効果的な補習システムや模試の活用を研究する。…「Classi」等の更なる活用。
- ③ 推薦入試への指導に対する効果的で無理のない校内体制の構築。
- ④ 総合的な探究の時間における探究活動やSDGs学習の更なる充実。
- ⑤ 保護者との連携を更に深め、生徒・教員・保護者が一体となった進路実現への支援。
- ⑥ 地元地域と連携し、地元の課題を考え、将来的に地元に貢献できる人材の育成。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月9日

【意見・要望・評価等】

- ・ゲストティーチャーとして3日間参加した。生徒に課題を提示し、生徒に考えさせ、プレゼンさせ、そのアドバイスをした。生徒は熱心に考え、よく解答してくれた。感心した。
- ・今年度の3年生が、3年間コロナの中でどのように過ごしてきたかに関心がある。
- ・1年生合同企業説明会に事業者として自分も参加するので、楽しみにしている。
- ・コロナで入試に影響した生徒は？
 - 1人共通テストで追試を受けたが、進路も決まっており、大きな影響はなかった。
 - 私大の推薦入試日にコロナで行けなかったが、大学側が追試日を設定してくれ合格できた。
- ・地域探究、地域貢献にとっても期待している。
駅前イルミネーション、有効活用に参加してくれて感謝している。
生徒の参加への積極性はどうか？
 - 積極的とは言い難い。教師から何度か声をかけて集まる。ただ、やり始めればしっかりやってくる。
 - 自分から一歩踏み出せる積極性が出てくると素晴らしい。